

お乗りになるまえの点検と調整

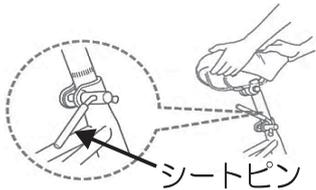
1 - ハンドルの点検

ハンドルの高さ・角度が適正か確認してください。また、ハンドルステムの限界標識線が見えていないことを確認してください。最後に左右のブレーキレバーを強く握り、自転車を前後に動かしガタつきがないか確認してください。また、ハンドルが前輪に対して90度（直角）になっているか確認してください。
※ハンドルの点検と調整はとても重要です。異常を感じた場合は直ちに使用を中止し、お近くの自転車店等にて点検を行ってください。



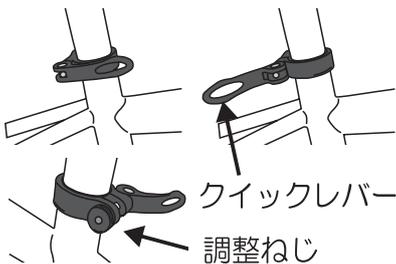
2 - サドルの高さ調整と固定確認

●シートピン形状の場合



シートピンを左回し（反時計回り）に回してゆるめます。
高さを調整したあと、シートピンを右回しに（時計回り）に回して固定します。
固定したあとは、シートピンを走行に支障がないようにフレーム側に倒してください。

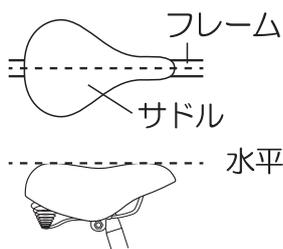
●クイックレバー形状の場合



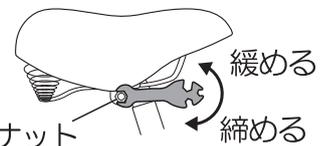
クイックレバーを起こし上げてサドルの高さを調整します。高さを調整したあとはクイックレバーを元の位置に倒して固定します。クイックレバーを倒したあと、手もしくは指にレバーの跡が残るくらいが適正な固定です。固すぎるもしくはゆるすぎる場合はレバー反対側のねじを回して調整してください。

※クイックレバーは必ずフレームに沿うようにして倒してください。

●サドルの適正な位置・角度

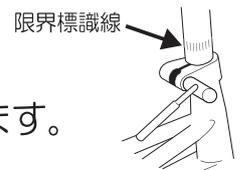


サドルの前後位置は、ペダルを斜め前の一番力のかかる位置にして足を乗せたとき、ひざの中心からの垂線がペダルの中心を通るようにするのが標準です。角度はサドルの上面がほぼ水平・フレームと平行になるように調整してください。サドルの前後位置・角度はサドル取付けナットを緩めて調整します。調整後はしっかり締付けてください。



注意

サドルの高さは限界標識線が見えない範囲で調整をしてください。限界標識線が見えた状態で乗車すると破損の原因となり、事故・ケガに繋がる可能性があります。また、両足先が地面につくように調整をしてください。乗車する際には毎回、サドルを上下左右に動かして確実に固定されていることを確認してください。ガタつき・ゆるみがある場合は、再度締め付け固定を行ってください。

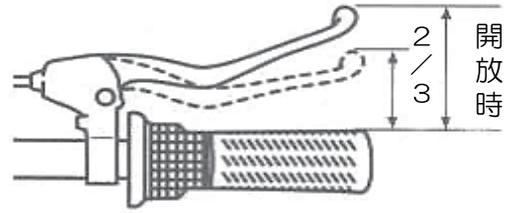


3 - 前後ブレーキレバーの引きしろ

右ブレーキレバー操作 → 前ブレーキが動作

左ブレーキレバー操作 → 後ブレーキが動作

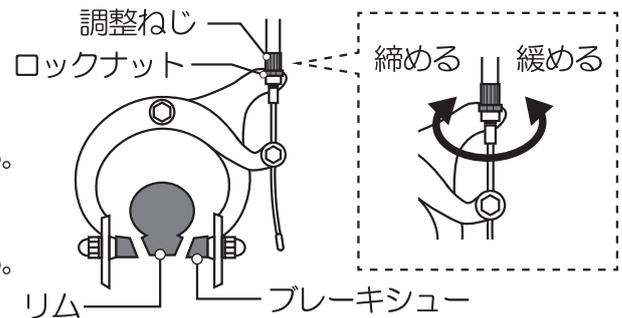
ブレーキレバーが開放時から約2/3の位置で、
ブレーキが効きはじめることを点検してください。



※ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は、遊びを少なくして再調整してください。
調整が難しいときは自転車店で点検調整を受けてください。

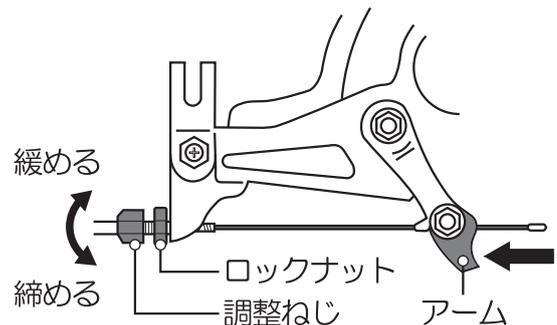
●前ブレーキの調整

- ① ロックナットを緩める。
- ② 調整ねじを回してブレーキレバーの遊びを調整する。
- ③ ブレーキレバーを握って引きしろを確認する。
- ④ 調整ねじが緩まないようにロックナットを締付ける。



●後ブレーキの調整

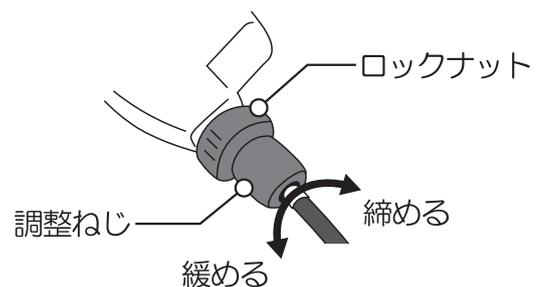
- ① ロックナットを緩める。
- ② アームを押しながら調整ねじを回して
ブレーキレバーの遊びを調整する。
- ③ ブレーキレバーを握って引きしろを確認する。
- ④ 調整ねじが緩まないようにロックナットを締付ける。



●ブレーキレバーで前後ブレーキを調整

右レバー：前ブレーキ / 左レバー：後ブレーキ

- ① ロックナットを緩める。
- ② 調整ねじを回してブレーキレバーの遊びを調整する。
- ③ ブレーキレバーを握って引きしろを確認する。
- ④ 調整ねじが緩まないようにロックナットを締付ける。



4 - ライトの装備・点灯の確認

汚れ・破損がないか、またライトが点灯するか点検してください。

車種によってはライトが標準装備されていないことがあります。夕方以降・夜間・暗い環境でご使用される場合は、あらかじめお客様ご自身でライトをご用意ください。

●照射角度

自転車の前方 10m を照らすようにライトの角度を調節してください。

5 - 前後車軸の固定点検

前後のタイヤをゆすり、ガタつきがないか点検してください。

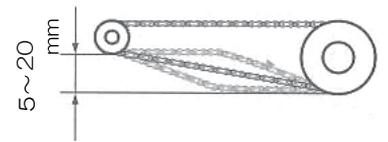
輸送中の振動によって固定がゆるむことがあります。ご購入後は必ず締め付け点検を行ってからご使用ください。また、乗車中の振動によっても固定はゆるみます。必ず定期点検を行ってください。

6 - ペダルの固定点検

ペダルをゆすりガタつきがないか、スムーズに回転するか、異音がないか点検をしてください。

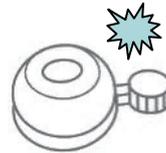
7 - チェーンの張り点検

チェーンの中央部を持って上下に動かし、その差が5～20mmあれば適正です。チェーンは張りすぎていても破損に繋がる可能性があり、ゆるすぎてもチェーンが脱落する原因となります。とくに新品の自転車はチェーンが伸びやすいため、ご使用開始から2カ月を目安に点検調整を行ってください。



8 - ベルの動作点検

ベルのノブを指ではじいてベルが鳴るか点検してください。

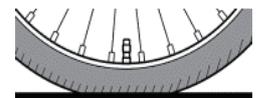


9 - 前後タイヤの摩耗・劣化の点検

タイヤの表面が擦り減っていないか、タイヤに釘などがささっていないか点検してください。擦り減りやひび割れがひどい場合は、パンクしやすい状態です。

タイヤ・チューブの交換を行ってください。

※交換するときは純正部品と同じ仕様寸法のものと同交換してください。



10 - タイヤの空気圧の点検

タイヤの空気圧が少ないと走行抵抗が大きくなりアシスト走行できる距離が短くなります。また、タイヤやチューブの劣化、パンク、リムの損傷の原因になります。タイヤの適正空気圧はタイヤ側面に表示されています。空気圧はいつも適切にしてください。

表示例：『 〇〇〇kPa、〇〇kgf/cm、〇〇PSI 』

11 - リムの点検

リムの表面が摩耗していないか確認してください。著しく摩耗していると強度が低下しパンクの原因になります。交換する際にはサポートセンターまでご連絡ください。



12 - ホイールリフレクタ、後リフレクタの点検

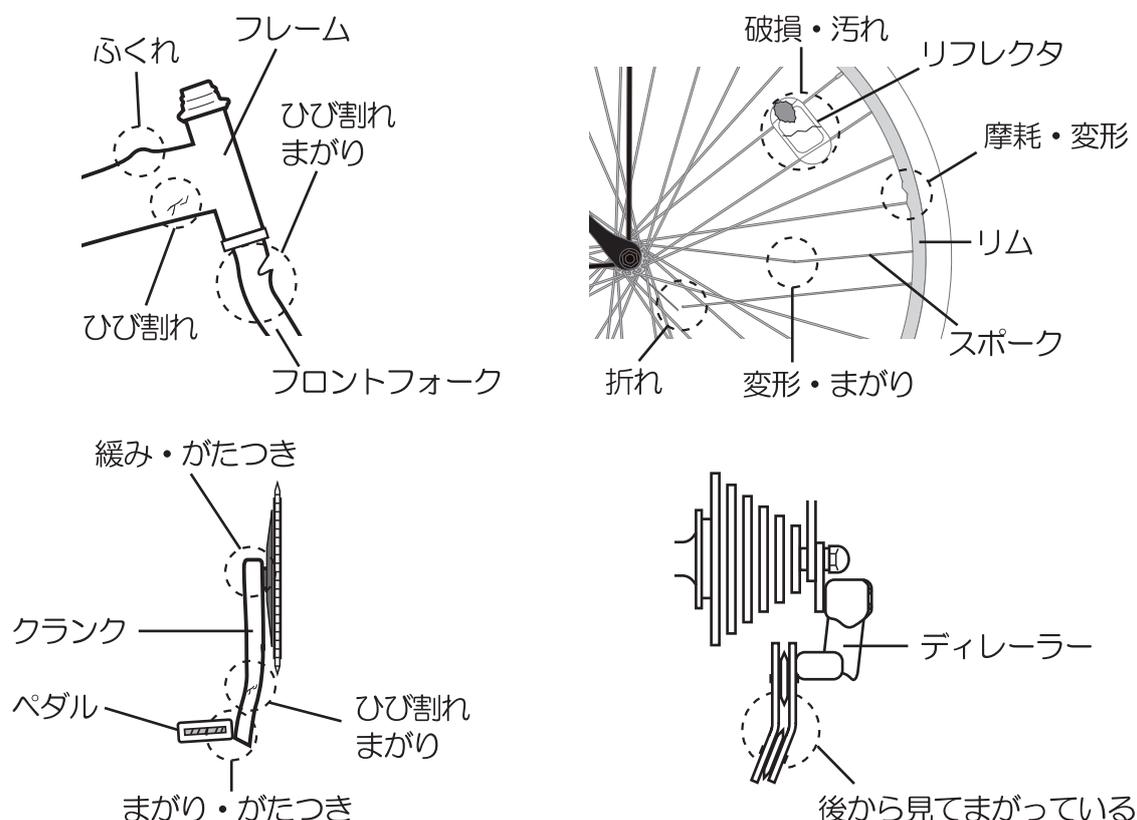
汚れ、損傷がないか点検してください。汚れはふき取り、損傷している場合は交換してください。

13 - 各部ねじの締め付け点検

ゆるみがある場合には、ドライバーやスパナ等で締め付けを行ってください。

14 - フレームや部品に変形やひび割れなどがないか点検

変形やひび割れなどの異常を見つけたら直ちに使用をやめてください。自転車が転倒したときなど、強い衝撃が加わったときは必ず点検してください。異常があるまま使用されると事故やケガにつながる恐れがあるので、販売店で点検・修理を行ってください。



15 - バッテリーの取付・残量の状態確認

確実に取り付けられているか、取り付け後ガタつきがないか点検してください。また、バッテリー残量が十分にあるか確認してください。

16 - 乗るときは安全な服装を着用する

裾の長いスカートやマフラーなどは車輪やチェーンに巻き込まれる恐れがあります。服装に注意してください。裾の広いズボンはズボンバンドを使用して巻き込みを防止しましょう。また、幼児用座席を取付けて幼児を同乗させる場合は幼児の服装にも注意し、幼児の足が車輪に巻き込まれないように保護ガードを装着してください。

注意

- 各部の締付け・固定を確認せずに使用しないでください。
車輪 / サドル / ハンドル / リヤキャリア / フロントフォーク / クランク / ペダルなど
- 点検で異常があった場合、部品の変形などの異常があった場合、異音や違和感を感じた場合は乗車しないでお近くの自転車店またはサポートセンターまでご相談ください。

交通ルールについて

警告

2015年6月より改正道路交通法が施行されました。違反すると、罰則を受けることがあります。自転車は道路交通法上、軽車両として扱われます。道路標識や信号などを守ることはもちろんですが、お互いに迷惑のかわらないよう交通ルールを必ず守り、安全に正しく乗りましょう。

1 - 発進のしかた

見通しのいい場所で、周囲を確認してから発進しましょう。

2 - 走行する場所

- 車道のいちばん左側を走るようにしましょう。
- 歩道は歩行者優先です。歩道では車道よりを徐行して走行します。
- 標識に従って走行しましょう。

	歩行者専用 自転車に乗車して通行することは原則できません。自転車から降りて通行しましょう。		自転車及び歩行者専用 自転車と歩行者が通行できる道路です。歩行者を優先し、安全に走行しましょう。
	自転車専用 自転車が通行できる道路です。周囲の状況を常に確認しながら、安全に走行しましょう。		普通自転車専用通行帯 自転車の通行のために、車道の左端に設けられる通行帯です。原則としてこの部分を通行しなければいけません。
	自動車専用 自動車以外の車両は通行できません。事故につながるので絶対に立ち入らないでください。		自転車一方通行 自転車は矢印の示す方向にのみ通行することができます。反対方向からの通行（逆走）はできません。

3 - 交通標識を守りましょう

自転車は道路交通法によって「軽車両」と位置づけられている車両です。
自動車と同様に交通標識を守って走行しましょう。

●一時停止しましょう

一時停止の標識があるときは必ず一旦停止しましょう。

また、狭い道路から大通りに出るとき、横断歩道や踏み切りを渡るとき、歩行者の妨げになるようなときなどは必ず一時停止して安全を確かめてから走行しましょう。



●横断するには

道路を横断したり交差点を渡る場合、近くに自転車横断帯があるときは、そこを通らなければなりません。

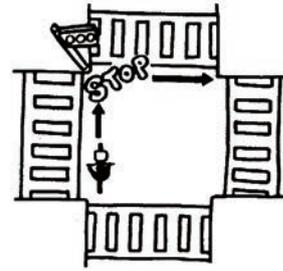
自転車横断帯 	横断歩道 自転車横断帯 	横断歩道 
自転車横断帯がある場合には、原則として横断歩道ではなく自転車横断帯を通行しなければなりません。	歩行者は横断歩道を、普通自転車は自転車横断帯を通行しなければなりません。	横断歩道は歩行者優先であるため、横断歩道を渡る歩行者がいる場合には、歩行者が渡りきるまで停止して待たなければなりません。

横断歩道では、一度止まって歩行者を優先させてください。また、自転車が通行可能な歩道を走行するときは徐行し、歩行者の妨げにならないよう気を配りましょう。

4 - 交差点の通りかた

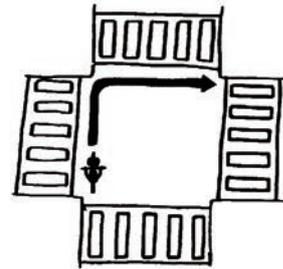
●信号のある交差点では

正面の信号が青のとき直進と左折ができます。
右折の場合は交差点の向こうまでまっすぐ進み、
一度止まって曲がる方向の信号が青なってから進みます。



●信号のない交差点では

左折するときは後方に注意しながら早めに合図をして、
できるだけ左によって十分スピードを落として曲がりましょう。
右折するときはできるだけ左によって交差点の向こう側までまっ
すぐ進み、十分スピードを落として曲がりましょう。



5 - 周囲の安全確認

交差点は事故が起こりやすいところです。周囲を十分に確認して安全を確保してから横断しましょう。
また、車の左折時に巻き込まれる事故が多発しています。車からの死角は数多くあります。危険と感じた
ときは、無理しないことがとても重要です。

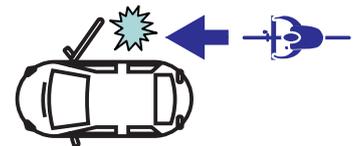
●子どもの飛び出しに注意しましょう。

つぎの道路標識が表示されている近くには学校、幼稚園、保育所等があります。
徐行運転して、子供の飛び出しなどに気を付けましょう。



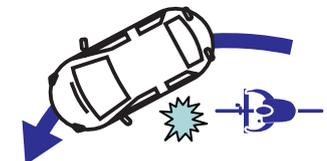
●停止中の車に注意しましょう。

車のドアが急に開き衝突する危険があります。スピードを落として
通過しましょう。また、後方から接近する車にも注意しましょう。



●左折する車に注意しましょう。

左折する車に巻き込まれる事故が多発しています。周囲の車の動きに
注意しましょう。車の死角に入ると大変危険です。十分に距離をとって
走行しましょう。



6 - 危険行為はやめましょう

- 信号無視
- 指定場所の一時不停止
- 遮断踏切への侵入
- 通行禁止違反
- 歩道における車両義務違反（徐行違反）
- 歩道通行時の通行方法違反
- 通行区分違反
- 路側帯通行時の歩行者の通行妨害
- 交差点安全進行義務違反
- 交差点優先者妨害等
- 環状交差点安全進行義務違反等
- 制御装置（ブレーキ）不良自転車運転
- 安全運転義務違反
- 酒酔い運転
- 妨害運転

※上記の危険行為をくり返すと、自転車運転者講習を命ぜられることがあります。

その他の危険運転

- スピード超過
- イヤホンを装着して走行
- 2人乗り走行
- 逆走
- 夜間無灯火走行
- ながら運転（スマホ操作）

7 - 駐輪について

- 駐輪するときは他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。
- 自転車から離れるときは盗難防止のために必ずカギをかけましょう。
盗難防止には二重施錠が有効的です。
- 自転車の放置は禁止です。
自転車の放置は地域環境の悪化になります。自転車との接触事故等の危険性もあり大変危険です。
他の人の迷惑にならないように、決められた場所にとめましょう。

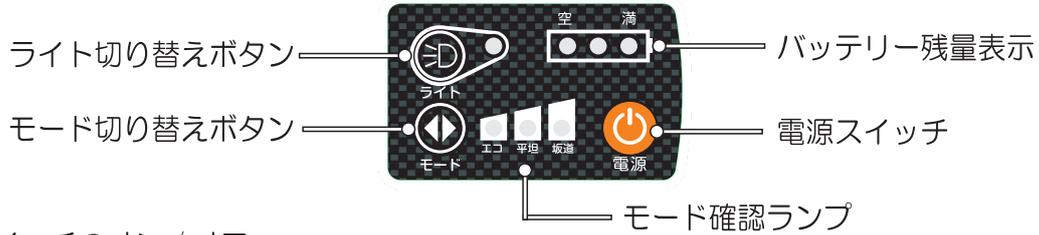
8 - 万一の事故への備え

- 安全のために、ヘルメットを着用しましょう。
- 対人・対物賠償保険に加入することをおすすめします。
自転車による事故でも、自転車は道路交通法上で軽車両と位置づけられているため賠償額の計算方法は自動車による事故と変わりません。万一に備えて保険に加入しましょう。
保険への加入を義務づけている自治体が増えていきます。ご使用される自治体にご確認ください。

電源操作

●ハンドルに操作パネルが装備されている車種

1 - 操作パネル説明



2 - 電源スイッチのオン / オフ

電源スイッチ（オン / オフスイッチ）を押すと、電源が入りランプが点灯します。

※ペダルを踏まずに電源を入れてください。起動時はバッテリー残量ランプが点滅し、2秒後に点灯に切り替わります。ランプが点滅している間はトルクセンサーの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。自転車を4分間以上動かさなかった場合は、自動で電源が切れる仕様となっています。

3 - 操作パネル バッテリー残量表示

下表のようにバッテリー残量の目安を表示します。お客様が実際に走行される条件と残量表示ランプの表示状況を確認し、アシスト走行できる距離の目安としてください。

残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	3つのランプが点灯 51～100%	アシスト走行が十分に可能です
	2つのランプが点灯 26～50%	走行状況によって アシスト力が弱くなります
	1つのランプが点灯 10～25%	充電してください
	ランプが点滅 0～9%	アシスト走行はできません

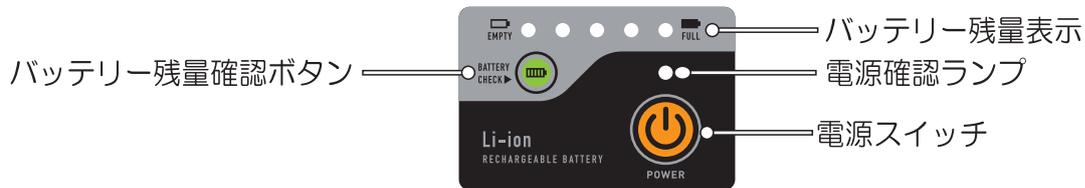
残量表示ランプが消灯していく間隔は、バッテリーの状態・走りかた・道路状況などにより異なります。走行中残量表示ランプが減り、停止中に点灯表示が戻ることがありますが、故障ではありません。

4 - アシストモード

エコ（低）モード	「アシスト力」を抑え、効率良く走りたい場合におすすめ ペダルを踏む力が少なくてもよい場合など、アシスト力を抑え節電走行します。
平坦（中）モード	平地中心に一定のアシスト力で走りたい場合におすすめ 広範囲にお使いいただける標準的なアシストモードです。
坂道（高）モード	坂道など力強いアシスト力で走りたい場合におすすめ 上り坂など力強いアシスト力が必要なときは、より楽に走行できますが電力の消費量は多くなり走行距離は短くなります。坂道のときにご使用ください。

●ハンドルに操作パネルが装備されていない車種（バッテリー本体 電源スイッチ）

1 - バッテリー本体パネル説明



2 - 電源スイッチのオン / オフ

電源スイッチ（オン / オフスイッチ）を 2 秒間押すと、電源の切り替えができます。

電源が入っているときは、スイッチ上部のランプが赤く点灯します。

※自転車本体にバッテリーを装着しないと電源スイッチは作動しません。電源スイッチの操作は自転車から降りて行ってください。また、必ず電源を切ってから自転車本体からバッテリーを取り外してください。自転車を 4 分間以上動かさなかった場合は、自動で電源が切れる仕様となっています。

3 - バッテリー残量表示

バッテリー本体残量表示 P30 をご確認ください。

4 - アシストモード

バッテリー本体で電源を操作する自転車には、アシストモードは備わっていません。

発進のしかた

1 - スタンドを上げてサドルにまたがります。

スタンドはロックレバーを後方に足で押し上げてください。

2 - 安全を確認して発進します。

ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を良く確認してからペダルを踏んで発進してください。

ペダルを踏み込むとペダルアシストが働き前進します。

3 - 注意事項

・けんけん乗りはしないでください。

※けんけん乗りとは・・・片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルにまたがる乗りかた。

・ペダルを踏みながら電源を入れると急発進の危険があります。また、トルク感知装置が正常に作動しない場合があります。そのときは、ペダルアシスト力が弱くなる場合があります（故障ではありません）ので、必ずペダルに足を乗せていない状態で電源を入れてください。

・バッテリーの残量が少ない状態（残量表示 1 点灯状態や点滅）のときに走行すると、走行条件によってはアシストが途中で切れることがあります。バランスを崩して転倒によるケガの恐れがありますのでご注意ください。

・夜間走行前には必ずバッテリー残量を確認してください。走行中電池残量がなくなった場合、ライトも消灯します。

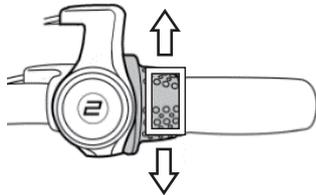
変速機について

ハンドル右側のグリップシフトを回して変速します。

●内装 3 段変速の場合

停止しているときでも変速操作ができます。

※走行中はペダルをこぐのを止めて操作してください。ペダルをこぎながら操作すると後輪軸内部の変速ギアが破損する原因となります。

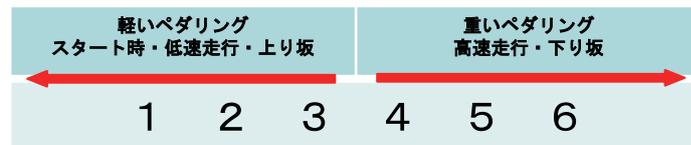
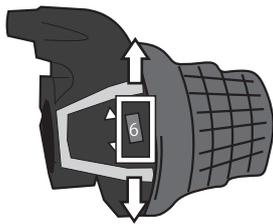


●外装 6 段変速 / 外装 7 段変速の場合

停止しているときは変速操作はできません。必ず走行中にペダルをこぎながら一段ずつ操作してください。

※下記の操作を行った場合、チェーンの脱落・変速機の破損に繋がる恐れがあります。注意してください。

- ・停止しているとき、またはペダルを止めているときに操作を行い、そのあとペダルをこぎはじめる
- ・ペダルを逆回転させながら操作する
- ・坂道など強くペダルを踏み込んでいるときに操作する
- ・一気に 2 段以上の変速切り替えを行う



※裾の長いスカートやマフラーなどは車輪やチェーンに巻き込まれる恐れがあります。服装に注意してください。裾の広いズボンはズボンバンドを使用して巻き込みを防止しましょう。

製造工場にて検査および各部調整を行い梱包し、お客様のもとにお届けしておりますが、運送時の振動によって再調整が必要になる場合があります。また、ご使用後まもなくでも、初期伸びによって再調整が必要になる場合があります。これらは製品特性上に発生し得る現象であり、製品不良には該当しないものとなります。スムーズに変速しない、ペダルに引っかかりを感じる、異音がするなどの異常を感じた場合は、ご購入店舗またはお近くの自転車店にお持ち込みのうえ再調整を実施してください。

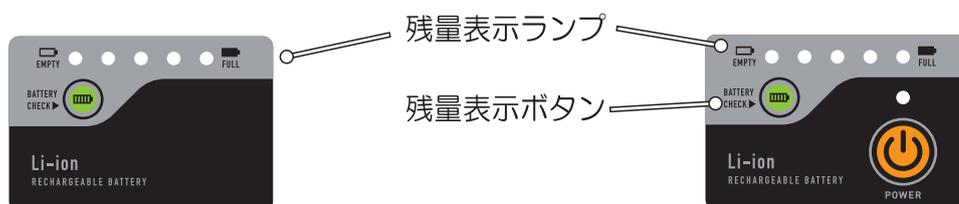
施錠について

ご使用後は必ずカギをかけてください。

- 一部の車種では、カギ本体のロックレバーを左に回しながら（反時計回り）ロックレバーを下げてカギをかける必要があります。
- 車種によっては自転車本体の施錠機能が標準装備されていない場合があります。盗難防止のために、お客様ご自身で自転車用ワイヤー錠等をご用意のうえ、自転車の施錠を行ってください。
- バッテリーキーもしくは自転車本体バッテリー共通キーを 3 本付属しています。紛失しないようにご注意ください。

バッテリー本体残量表示

- バッテリー本体の残量表示ボタンを押すとLEDランプが点灯します。モデルによってボタンの位置は異なります。
- お客様が実際に走行される距離と残量表示ランプの表示状況を確認してご使用ください。
- 残量表示はあくまでも目安です。走行環境・バッテリーの劣化状況によって走行距離は変わります。
- バッテリーのモデルによって、ランプ表示点灯の順番が左右逆転します。下記の表は参考としてご覧ください。



残量ランプ表示	バッテリー残量	目安
	緑のランプが4つ点灯 71～100%	アシスト走行が十分に可能です
	緑のランプが3つ点灯 46～70%	
	緑のランプが2つ点灯 26～45%	そろそろ充電してください アシスト力が徐々に低下する場合があります。
	緑のランプが1つ点灯 10～25%	充電してください アシスト力の低下、動作不安定になることがあります。 また走行環境によっては、電源が切れることがあります。
	赤ランプが点灯 0～9%	充電してください アシスト走行はできません

※バッテリーは自然放電します。長期間使用されずに残量がなくなったときは、保護回路がはたらき電源が入らなくなる場合があります。使用していなくても定期的に充電してください。リチウムイオンバッテリーは継ぎ足し充電をしても劣化は促進されません。残量ランプが点灯していても低残量のまま放置せず、緑ランプ2～3点灯を目安に充電してから保管することをおすすめします。

※冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなる、アシスト力の低下、アシストが不安定になる等の症状がでることがあります。

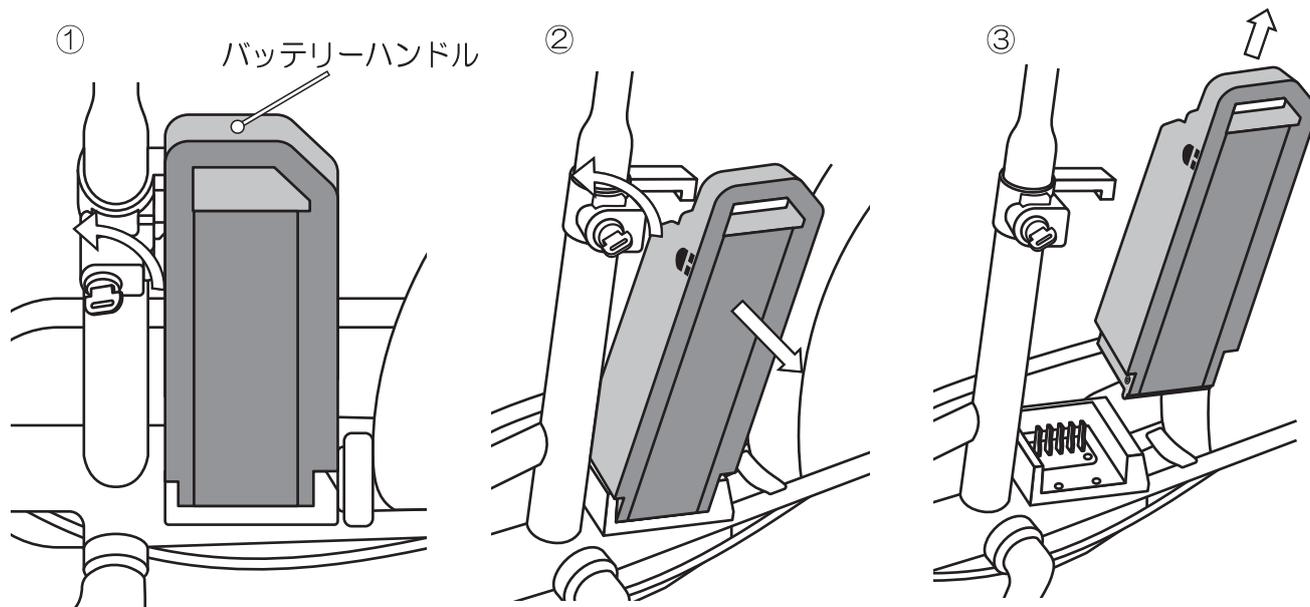
バッテリーを温度 15～25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。

バッテリーの取扱い・充電のしかた

1 - バッテリーを取り外す

※電源を切ってからバッテリーを取り外してください。

- ① バッテリーハンドルを持ち、カギを鍵穴に差し込み反時計回りに 90 度まわします。
- ② カギを回した状態のままバッテリーハンドルを手前に倒します。
- ③ そのまま上に引き抜くように取外します。
- ④ カギを忘れずに抜いて保管してください。



※上記はイメージ図です。

車種によってはバッテリー形状、バッテリーシリンダーの位置が異なる場合があります。

⚠ 注意

- ・自転車本体から、必ずバッテリーを外して充電を行ってください。
- ・バッテリーを取り外すときはバッテリーハンドルを持ちながらキーを回してください。
- ・バッテリー本体を持たずにキーを回すとバッテリー本体が落下し破損、ケガをすることがあります。

2 - 充電する場所（下記条件をみたすところ）を決める

- 風通しがよく湿気の少ないところ。
- 平坦で安定のよいところ。
- 直射日光や雨つゆの当たらないところ。
- 周囲温度が 0℃～ 30℃のところ。
- 水がかからないところ。
- 幼児やペットの手が届かないところ。

⚠ 注意

- ・必ず屋内で充電してください。野外では行わないでください。
- ・直射日光の当たる場所、室温が 35℃以上の場所、湿度の高い場所では充電しないでください。

3 - バッテリーと充電器を接続する

①充電プラグをバッテリーに接続します

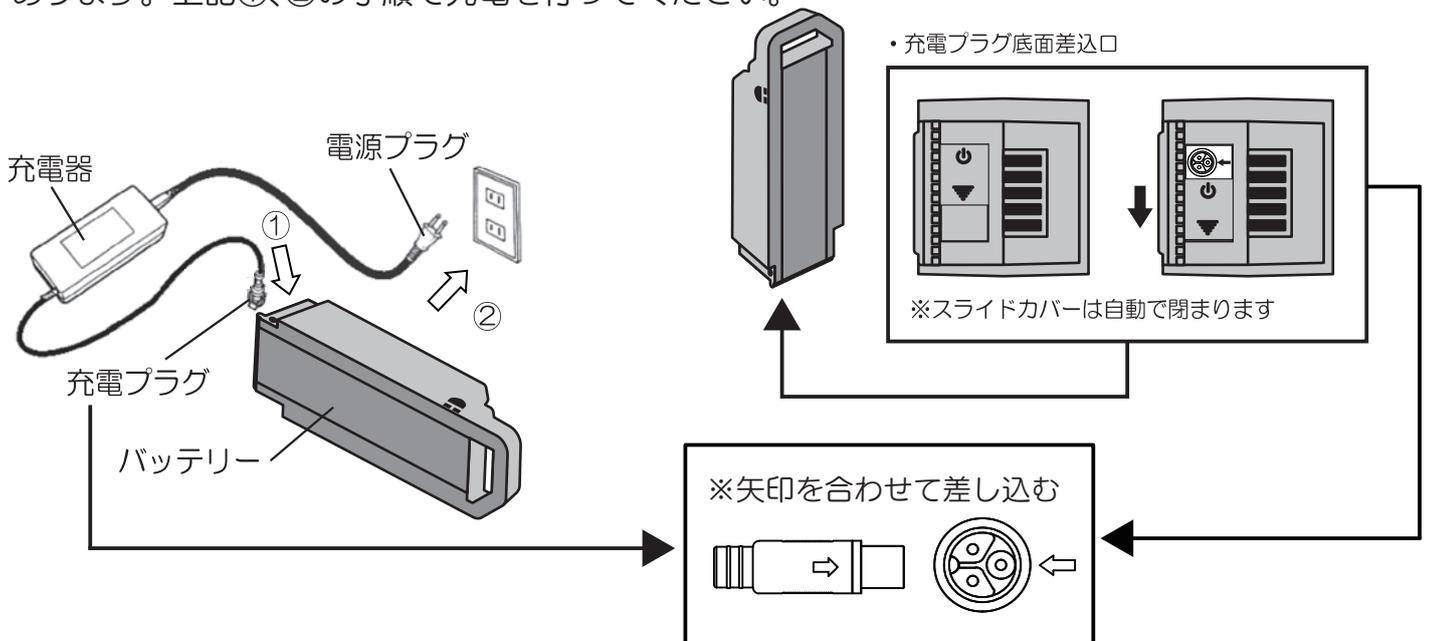
充電プラグ差込口はバッテリー本体側面もしくは底面にあります。底面に差込口がある場合は、底面のスライドカバーを矢印の方向にスライドさせて、充電プラグをバッテリーの充電端子にしっかりと奥まで差し込んでください。

②充電器の電源プラグをコンセントに差し込みます ⇒ 充電器本体のランプが緑色に点灯後赤色に点灯

※点灯色が切り替わるのに5秒ほどかかることがあります。必ず点灯色が切り替わったことを確認してください。ランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、上記の手順で再接続してください。再接続後もランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。

⚠ 注意

充電器とバッテリーを接続する前に電源プラグをコンセントに差し込むと、火花が出る場合があります。上記①、②の手順で充電を行ってください。



⚠ 注意

- バッテリーと充電器を接続するときは、差込口が濡れていないこと、汚れがついていないことを確認してください。
 - 傾いたところで充電しないでください。
 - 充電プラグはバッテリーの充電端子の奥までしっかり差し込んでください。
 - テレビやラジオの近くで充電しないでください。テレビやラジオに雑音が入る場合があります。
 - 充電器とバッテリーは5cm以上の間隔をあげ、覆い等で空気循環を妨げないでください。
 - 充電時以外はコンセントの接続を外してください。
 - 充電器の表示ランプが点滅している場合は、直ちにご使用を中止してください。
- ※バッテリーは工場出荷時、十分に充電されていません。ご使用になるときは充電してご使用ください。

4 - 充電器ランプ表示説明

緑ランプ点灯	赤ランプ点灯	その他点滅
待機状態 / 充電完了	充電中	異常検知

注意

- 充電完了後は充電器とコンセントの接続を解除してください。
- ランプが異常点滅している場合は、充電器をコンセントから抜いて、上記の手順で再接続してください。再接続後もランプが異常点滅を繰り返す場合は、ご使用を中止しサポートセンターまでお問い合わせください。
- 異常点滅の詳細は充電器上の注意シールをご確認ください。

5 - 充電時間の目安

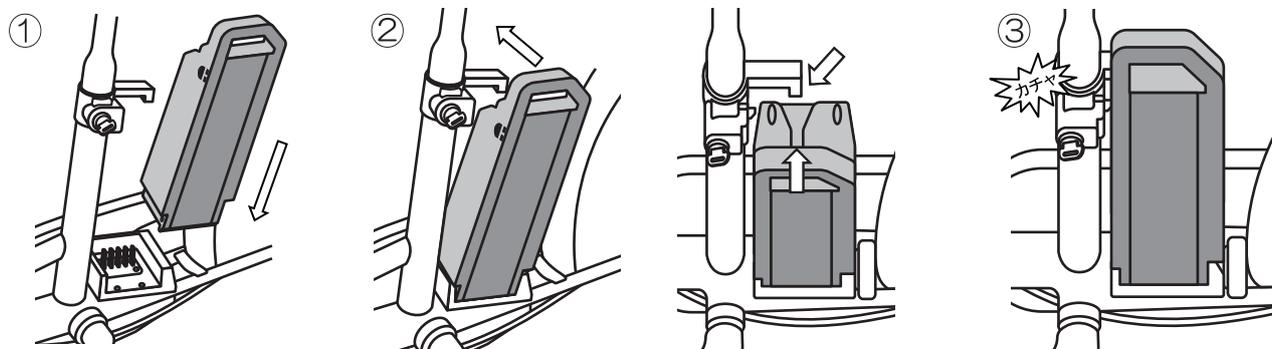
バッテリーの容量	4.0 Ah	5.8 Ah	8.5 Ah
充電時間	約 2 時間 20 分	約 3 時間 30 分	約 5 時間

- バッテリー本体の残量表示ランプが1つになってから充電した場合の時間です。
- 充電前のバッテリー状態や充電環境温度などにより異なります。
- ご購入後はじめての充電は多少充電時間が長くなることがあります。
- 充電中は、充電器およびバッテリーが多少熱くなりますが、異常ではありません。

6 - バッテリーの取り付け

※バッテリー取り付け部に異物がないか、濡れてないかを確認してください。

- ①バッテリーハンドルを持ち、バッテリー受け手前側の溝にバッテリー本体を合わせ斜めに差しこみます。
- ②バッテリーを矢印の方向（車体側斜め上方向）に押し込みます。
このとき、バッテリー側のレールと本体側のガイドを合わせるようにしてください。
- ③バッテリーを定位置に設置したあと、カギをかけてロックします。（車種によっては自動ロック機能付き）
※しっかり固定されていることを確認してください。また、キーは必ず抜いて保管してください。



※上記はイメージ図です。

車種によってはバッテリー形状、バッテリーシリンダーの位置が異なる場合があります。

8 - バッテリーの買い替えの目安と特性

●バッテリーの買い替え時期の目安として、約 700 回の充電の繰り返しで交換時期に至る場合が多いですが、充電回数が 700 回未満の場合でもご使用頻度や保管の条件等により、1 ～ 2 年程度の使用期間で一充電あたりの走行距離が著しく短く（新品時の約半分以下）なる場合があります。

※ペダルを強く踏み込む状態で走行する機会が多かったり、高温になる場所でバッテリーを保管すると通常より少ない充電回数や短い期間でバッテリーが消耗し、寿命となる場合があります。

※バッテリーは消耗品です。「バッテリー買い替えの目安」と保証期間は関係ありません。

●長期間（1 ヶ月以上）保管されるときは自転車からバッテリーを外し、70%程度まで充電して室内の高温にならない涼しい場所で保管してください。使用しなくてもわずかずつ放電します。3 ヶ月毎に 1 度充電残量を確認して必要であれば 10%程度補充電し、再使用時は満充電をしてからご使用ください。

●冬季はバッテリーの特性上、走行できる距離が短くなりアシスト力が低下することがあります。バッテリーを温度 15 ～ 25℃の室内で保管してからご使用いただくと症状を軽減することができます。

9 - 別売品（交換品のご購入）

お使いのバッテリーに記載されている型番をお控えのうえ、販売店またはサポートセンターまでお問い合わせください。

※必ず純正品をお求めください。他社製品のバッテリー・充電器を使用すると発熱・発火の恐れがあります。

10 - バッテリーの廃棄

この商品にはリチウムイオン電池を使用しています。リチウムイオン電池はリサイクル可能な貴重な資源です。バッテリーが不要になった場合は、ご購入店または保証書記載のサポートセンターまでご相談ください。電池のリサイクルにご協力をお願いします。



お手入れと保管

1 - お手入れについて

- 本体の汚れは、水を含ませ固くしぼったやわらかい布などで、きれいにふき取ってください。
- 汚れのひどいときは、中性洗剤を浸した布でふき取り、乾いた布で洗剤が残らないようによくふき取ってください。
- スポーク・ペダルシャフトなどのスチール部品は、布に防錆剤を吹き付けてふいてください。
- フレームなどの金属塗装部は、汚れをふき取った後、布に少量のワックスをつけてみがきます。

 警告	水洗いはしないでください。雨天走行で水にぬれたときは乾いた布でふき取ってください。浸水によって電気部品（モーター部、バッテリー部など）および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。
 注意	シンナーやベンジン、みがき粉、アルカリ性洗剤、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。変色、傷、変形、ヒビ割れの原因になります。

2 - 保管について

1. 保管場所（下記条件を満たすところ）を決めます。
 - 風通しがよく湿気の少ないところ
 - 平たんで安定のよいところ
 - 直射日光や雨つゆの当たらないところ※雨ざらしになるところや高温になるところは避けて保管してください。
ごみ・ほこり・汚れ・水濡れを防ぐためにサイクルカバーをご使用ください。
2. 電源スイッチが切れていることを確認してください。
3. カギをかけます。
 - ※盗難防止のために必ず、カギをかけてキーを抜いてください。
 - ※キーは紛失しないようにしっかり保管してください。

3 - 長期保管後のご使用について

1. ご使用になる前に、ご購入店舗またはお近くの自転車店にて有技術者による点検整備をお受けください。
2. 長期保管された場合、タイヤの空気が抜けていることがあります。ご使用していなくてもタイヤの空気は自然と抜けます。長期保管によってタイヤ・チューブが変形することがあり、再度空気を充填した際に、パンクする可能性があります。※パンクは保証対象外となります。
3. バッテリーは再充電してからご使用ください。

3 - 自転車の廃棄について

各自治体の指示内容に従って適切に処分してください。

注油について

- 注油する箇所を誤ると制動が悪くなるなど機能に影響するので注意してください。
また、フレームヘッド回転部、ギヤクランク回転中心軸、ハブ、ペダルなどの回転部にはグリスが
まっまっているので注油は必要ありません。自転車店ででの定期点検のときにグリスアップしてください。

 このマークは注油場所を示します。

 このマークは注油禁止場所を示します。



注意

- リムやブレーキシューなどの制動面には油をささないでください。
ブレーキが効かなくなり大変危険です。
- タイヤについた油は拭きとってください。ひび割れなど劣化の原因になります。
- チェーンに注油したときは余分な油を拭きとってください。埃の付着を防ぎます。
- ローラーブレーキには専用グリスを使用してください。

故障かな？と思ったら

警告

- 次の点検をしていただき、それでもなお異常があるときは事故防止のためご使用を中止し、サポートセンターにご相談ください。
- 改造しないでください。分解や修理をしないでください。

1 - 自転車について

こんなとき	確認	対処
ペダルが重い	電源が入っていることを確認してください。	電源を入れてもアシストしない、電源が入らない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
	タイヤの空気圧が減っている、もしくはパンクしていませんか。	空気を充填してください。パンクしている場合は、自転車店等で修理をしてください。
電源スイッチが入らない	バッテリーの充電残量を確認してください。	バッテリーを充電してください。
	配線は断線していませんか。	断線している場合は修理が必要です。
走行できる距離が短い	バッテリーの充電残量を確認してください。	バッテリーを充電してください。
	上り坂の連続走行や発進停止の繰り返しなど、高負荷運転をされていませんか。	走行条件によって、走行できる距離は短くなります。
	長期間使用しないで保管されていませんか。	バッテリーは自然放電します、長期間保管するとバッテリー残量は減ります。
	温度の低い環境でバッテリーを保管していませんか。	冬季などはバッテリーの特性上、バッテリーパフォーマンスが下がります。温度 15～25℃の室内で保管してからご使用ください。
操作パネルのランプが点滅する	自転車から降りて電源を入れ直してください。	改善されない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
走行中に異音がする	各部品が駆動部に当たっていないか確認してください。	ご購入店もしくはお近くの自転車店で点検をお受けください。(有料)

- 上記以外にも当社ホームページ内『お客様サポート - よくあるご質問』にてご案内しておりますのでご確認ください。

2 - バッテリー・充電器について

こんなとき	確認	対処
充電器のランプが点灯しない	電源プラグはコンセントに接続してありますか。	28 ページに記載されている順番で、もう一度バッテリーと充電器を接続してください。
充電器のランプが点滅する	充電完了後も長い時間、バッテリーと充電器を接続していませんか。	充電完了後はバッテリー、充電器、コンセントの接続を解除してください。
	充電直後に再接続していませんか。	満充電からの追加充電はしないでください。バッテリーの劣化を促進させます。
	周囲温度が 30℃以上もしくは 0℃以下ではありませんか。	周囲温度が 0℃～ 30℃のところで充電してください。
	-	時間をおいて、再度充電してください
充電しない	他社製品の充電器を使用されていませんか。	充電器裏面の型番・製造会社名等を確認してください。
	バッテリー本体の残量表示は点灯しますか。	充電しても点灯しない場合はサポートセンターまでご連絡ください。
充電中にバッテリー・充電器が熱くなる	手で触れられないくらい熱くなっていますか。	充電中は多少熱く（40℃～ 70℃）になりますが故障ではありません。手で触れられないほど熱いときは異常です。電源プラグを抜いてサポートセンターまでご連絡ください。
異臭・異音・煙が確認された	-	ただちにご使用を中止し、サポートセンターまでご連絡ください。

- 上記以外にも当社ホームページ内『お客様サポート - よくあるご質問』にてご案内しておりますのでご確認ください。

防犯登録について

●防犯登録は法律で義務付けられています。お買い上げの販売店または自転車用防犯登録所の看板のある自転車店にご相談ください。

- 車体番号が刻印されている場所 -

車体番号はヘッドチューブ（前ブレーキ本体上部）、またはバッテリー後方部のプレートに刻印されています。



●盗難にあった場合には捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入してください。

記入欄

--

●TSマークについて

TSマークは、道路交通法令の基準に適合し、国家公安委員会の型式認定を取得した自転車に貼付されます。自転車に貼られたTSマークは、はがさないでください。

※工場出荷時に貼付しているTSマークには、保険は付帯されていません。

保険であるTSマーク（青マーク第一種、赤マーク第二種）についてはお近くの自転車店にご相談ください。

※一部、型式認定を取得していない車種があります。



●乗る前の点検

「乗る前の点検」とは、ご使用前に毎日お客様ご自身でおこなっていただく最少限度の点検・調整のことです。「お乗りになるまえの点検と調整」に書かれた点検方法に従い、ご使用前に必ず実施してください。

●定期点検・調整

「定期点検・調整」とは、末永く安全にご愛用いただくため、お客様に代わってお買い求めいただいた販売店などでおこなう点検・調整のことです。販売店（自転車組立整備士・自転車安全整備士）へご依頼ください。※料金は有料となります。あらかじめ販売店などにご相談ください。

点検・整備チェックリスト

- ・購入後は必ず自転車安全整備士や自転車技師またはそれと同等の技能を有する者による初期点検を行ってください。
- ・ご使用開始から2か月以内に点検を行ってください。2か月ほどで各部のねじに緩みが生じることがあります。以降は6か月ごとに点検を行ってください。
- ・安全にご使用いただくために、必ず継続して点検を行ってください。
- ・定期点検以外でも異音・異常を感じたときは、すみやかに点検を行ってください。
- ・点検で不備があれば必ず調整・修理等を行ってください。不備があるまま使用してはいけません。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
点検項目	購入時	2ヶ月	6ヶ月	1年	1年半	2年	2年半
大きさは乗り手の体格にあっているか							
サドルにまたがって足が地面に届くか またサドルの固定は確実か							
ハンドルの高さは適正か、また固定は確実か							
フレーム、前ホークに変形や亀裂はないか							
ヘッド、ハンガー小物にガタ・摩耗はないか							
どろよけの固定は確実か、変形はないか							
後キャリアに変形、折損はないか しっかり取付されているか							
スタンドの取付と作動は正常か							
タイヤの空気は適正か、すりへっていないか							
ペダルの固定は確実か、バリはないか 変形や折損はないか、回転は正常か							
クランクに曲がりはないか、ガタつきはないか							
車輪の固定は確実か、フレーム等に接触がないか 締付トルク：モーター車輪ハブナット / 35N.m							
スポークのゆるみ、変形、切損はないか 軸部のガタはないか							
ブレーキゴム・ワイヤーは摩耗していないか							
チェーンのたるみ、張りは適正か							
前照灯は点灯するか							
リフレクターは破損していないか							
ベルは良く鳴るか							
ギアチェンジは正確に作動するか							
定期点検・整備を実施した 販売店ならびに年月日	年 月 日						

※書き方 点検・・・良好○ 不備×

品質保証規定

－ 無料修理規定 －

1. 保証期間はご購入日より 1 年間。但し消耗部品等は除く。
2. 取扱説明書の注意書に従った使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理をさせていただきます。
(イ) 無料修理をご依頼になる場合には商品に保証書を添えて頂き、ご購入上げ販売店にお申しつけください。
3. ご転居の場合の修理ご依頼等はお買い上げ販売店にご相談ください。
4. ご贈答品等で本保証書に記入の販売店で無料修理をお受けになれない場合には、保証書に記載の相談窓口にご相談ください。
5. 保証期間内でも次の場合には原則として有料にさせていただきます。
(イ) 使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷
(ロ) 取扱説明書に従わない使用方法（乗車定員、禁止事項の無視等）による故障及び損傷
(ハ) 衝突・転倒・転落等の扱いの誤りによる故障及び損傷
(ニ) 自転車が一般に走行しない場所を走行された場合の故障及び損傷
(ホ) 業務用（荷物運搬、新聞配達等）・営業用（レンタルサイクル等）・不特定多数で使用された場合の故障及び損傷
(ヘ) 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変及び公害・塩害・ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷
(ト) 消耗部品等（下記記載）及び消耗部品の消耗によって生じた二次的故障及び損傷

消耗部品等	タイヤ・チューブ・バルブ・ギアワイヤー・ブレーキワイヤー・チェーン・リム・スポーク・ニップル・ハブ軸（内装ギア含む）・ギアクランク・スプロケット・ブレーキパッド・グリップ・カゴ・サドル・ベル・スタンド・ドレスガード・ペダル・カギ・リフレクター類
-------	--

- (チ) レース等の酷使による故障及び損傷
 - (リ) クギ・ピン・ガラス・切削くず・鋭利な石ころ等により生じたパンク
 - (ヌ) 保証書のご提示かない場合
 - (ル) 保証書はご購入年月日・お客様名・販売店名の記入捺印がない場合、あるいは文字を書き換えられた場合
*但し購入時、購入年月日・製品名（品番）・販売店名の記入がない場合は、納品書などの製品名（品番）
購入年月日・販売店名が記載されたものをご用意ください。
6. 保証書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
 7. 保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
 8. ご相談窓口は下記をご参照ください。

※お客様にご記入いただいた個人情報（保証書）は、保証期間内の無料修理対応及びその後の安全点検活動のために利用させていただく場合がありますのでご了承ください。

※本規定の変更

当社は、お客様への事前の通知およびその承諾なしに本規定の内容を変更できるものとします。この場合、本保証書の提供条件は変更後の規定によるものとします。なお、変更後の規定については、当社ホームページにより通知するものとします。<http://kaihou.com/>

品質保証書 貼付

KAIHOU

株式会社 カイハウジャパン

〒192-0903

東京都八王子市万町10-1

TEL：042-686-3645（サポートセンター）

メールアドレス：info2@kaihou.com

受付時間：月～金曜日（祝祭日を除く）10～17時

総合お客様サポートページは
こちら

